

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 信文



■ 連休明け

4月29日(昭和の日)、30日(土)、5月1日(日)、3日(憲法記念日)、4日(みどりの日)、5日(こどもの日)、7日(土)、8日(日)。国民の祝日は1年に16日ありますが、この10日間にその4分の1がひしめいています。世間では、なかなか休暇が取りにくい職場も多いというのに、申し訳ない連休が続きました。

もっとも私の方は、ホームタウンの市長として5月3日と7日、いずれもレノファ山口の応援に維新百年記念公園陸上競技場へ。また、最後の5月8日は、朝から市民運動会出合大会、有帆市まつり、小野田料飲店組合総会、須恵ふるさとづくり・地区社協の合同総会等を回り、たっぷり地域のみなさんの元気な様子を拝見することができました。

出合地区は、6年前に総合型地域スポーツクラブ「出合いちょうクラブ」を作るなど、スポーツの盛んな地区です。

有帆市まつりは、旧厚狭郡での三大市の一つで、毎年5月の第2日曜日に行われてきた約240年の歴史をもつ伝統行事。劇団の芝居が人気だそうです。

小野田料飲店組合では、今年の新規事業として、チケットを手に料飲店を巡る「せんほろ(1000円でほろ酔い)」に取り組むそうです。3枚セットの前売券を発売予定とか。日ごろ、公式行事以外の外での飲酒を慎んでいる私も、子ども時代の友人と回ってみたいくなりました。

最後の須恵ふるさとづくり・地区社協の合同総会は、毎年7月恒例の「社会を明るくする運動強調月間」を先取りする印象でした。時間的

には、休暇の倍返しといったところでしたが、有益な1日で、ありがたく思っています。

■ 山口東京理科大学について

大学から資料が届きました。今年の受験願書の総数は、ちょうど4600人(定員200人)。県別では、福岡、山口、広島がダントツ。次いで岡山、愛媛の順。合格者数も、ほぼその順です。ただし、複雑な受験の仕組みから、入学者数は、山口、福岡、広島の順で、1位の山口県は60人、全合格者数の約27%でした。

地方創生に役立てたいとの強い期待のもと、苦心のすえ、ようやく認可が下りた大学であることを忘れず、山口県出身学生の入学率と、大学卒業生の県内企業等(本社を含む)への就職率が、いずれも目標の60%に近づく日が来ることを願っています。ちなみに、山口県の瀬戸内側は、全国でも有数の工業都市のベルト地帯です。

早速、来春の県内就職先の開拓を、一部の担当部署に任せず、全学の協力のもと、私も一緒になって頑張りたいと考えています。



有帆市まつりの様子